

デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社



2020年6月期 第3四半期決算説明資料
(東証1部：3916)

2020年5月



1. 2020年6月期 第3四半期決算報告

2. 2020年6月期 連結決算業績予想

3. 中期経営計画

4. 参考資料

2020年6月期 第3四半期決算報告



2020年6月期 第3四半期決算総括（業績）

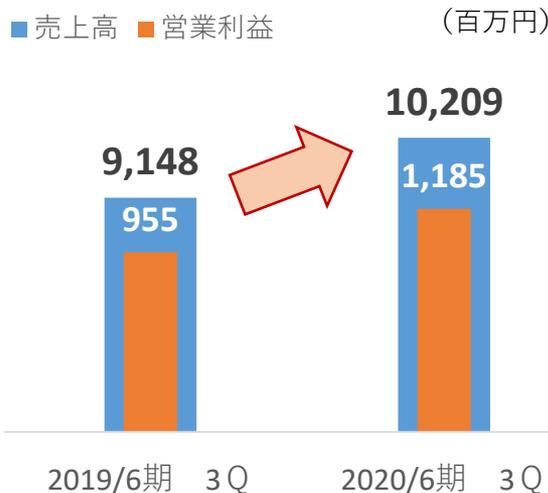
増収増益、第3四半期累計期間として、過去最高の業績を更新
(第3四半期における新型コロナウイルスの影響は、限定的に推移)

売上高 : 10,209百万円 (前期比+11.6%)

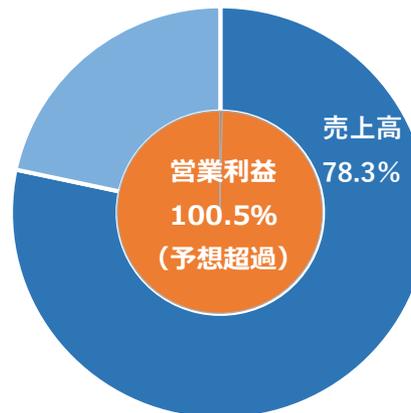
営業利益 : 1,185百万円 (前期比+24.2%)

営業利益率 : 11.6% (前期比+1.2Point)

第3四半期業績



第3四半期業績進捗率



新型コロナウイルスによる影響は合理的に算定できず、通期業績予想は据置き、変動ある場合は速やかに開示予定。

全事業で順調に業容が拡大

- ・**ビジネスソリューション事業**は、事業ポートフォリオを見直し、より高利益案件へ戦略的にシフトすることにより、利益率アップを実現。運用サポートが積極的な顧客開拓により大幅に伸長。
- ・**エンベデッドソリューション事業**は、開発・検証とともに継続して車載関連への戦略的シフトを進め、売上・利益ともに大幅に伸長。また、IoT領域も順調に進展。
- ・**自社商品事業**は、「WebARGUS」、「xoBlos」とともに商品力拡充と販売強化により順調に拡大
- ・**システム販売事業**は、軽減税率対応やWindows7サポート終了対応等によるシステム入替え、改修需要により、大幅に伸長。

新型コロナウイルス対策について

新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、以下の基本方針にて具体的対策を実行中

基本方針

1. 従業員及びその家族の生命の安全・健康を確保する
2. お客様・取引先・株主等への影響の最小化を図る
3. 事業に与える被害を監視し、必要に応じて情報発信する

具体的な対策

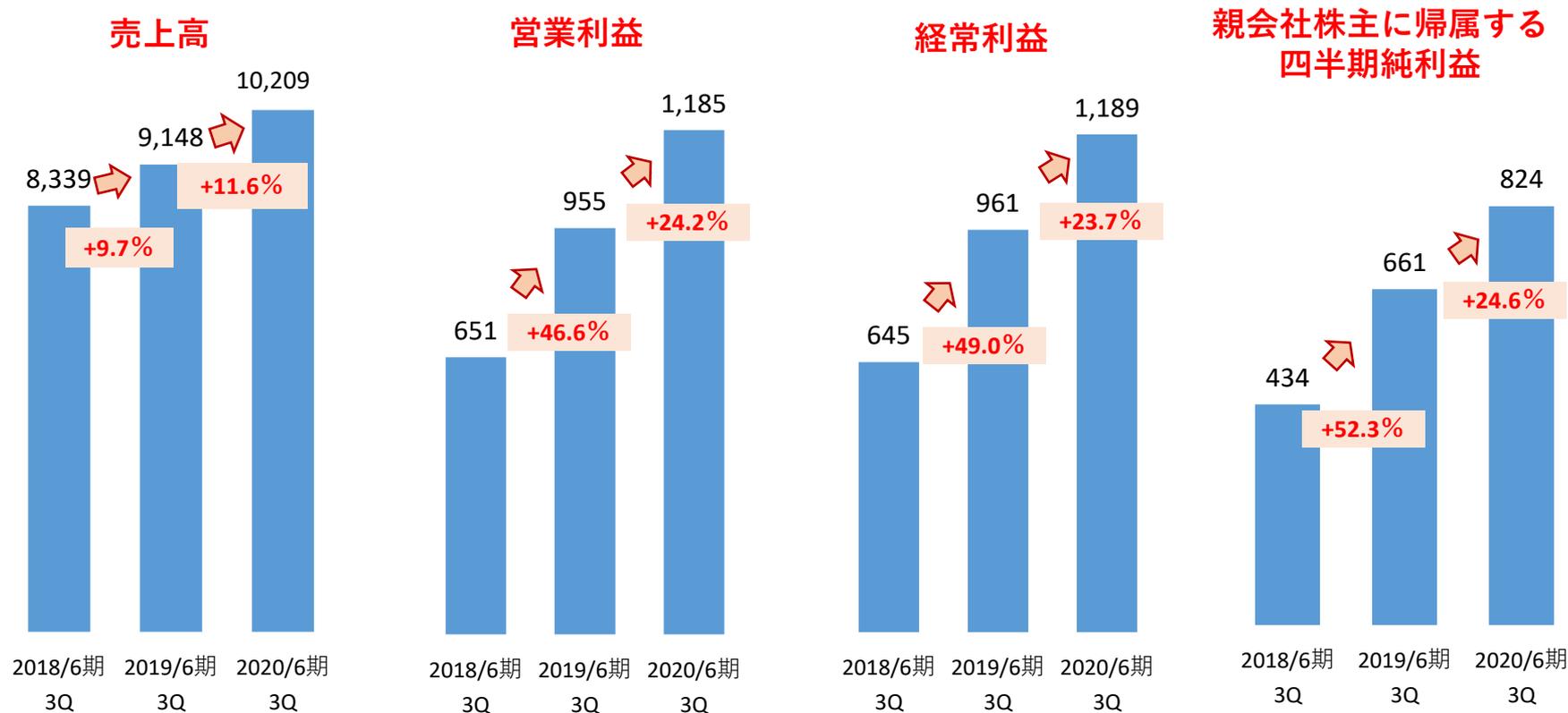
1. 従業員及びパートナー社員の健康状況のモニタリング
2. 在宅勤務、シフト勤務、時差出勤の奨励
3. 出張の自粛（国内外）
4. W e b 会議の推進
5. 外部セミナーへの参加自粛
6. 懇親会、接待の自粛
7. 新入社員研修をW e b 研修にて実施

テレワーク応援キャンペーンとしてxOBlos「e-ラーニング」
「クライアントライセンス」等の無償提供を開始

2020年6月期 第3四半期業績ハイライト

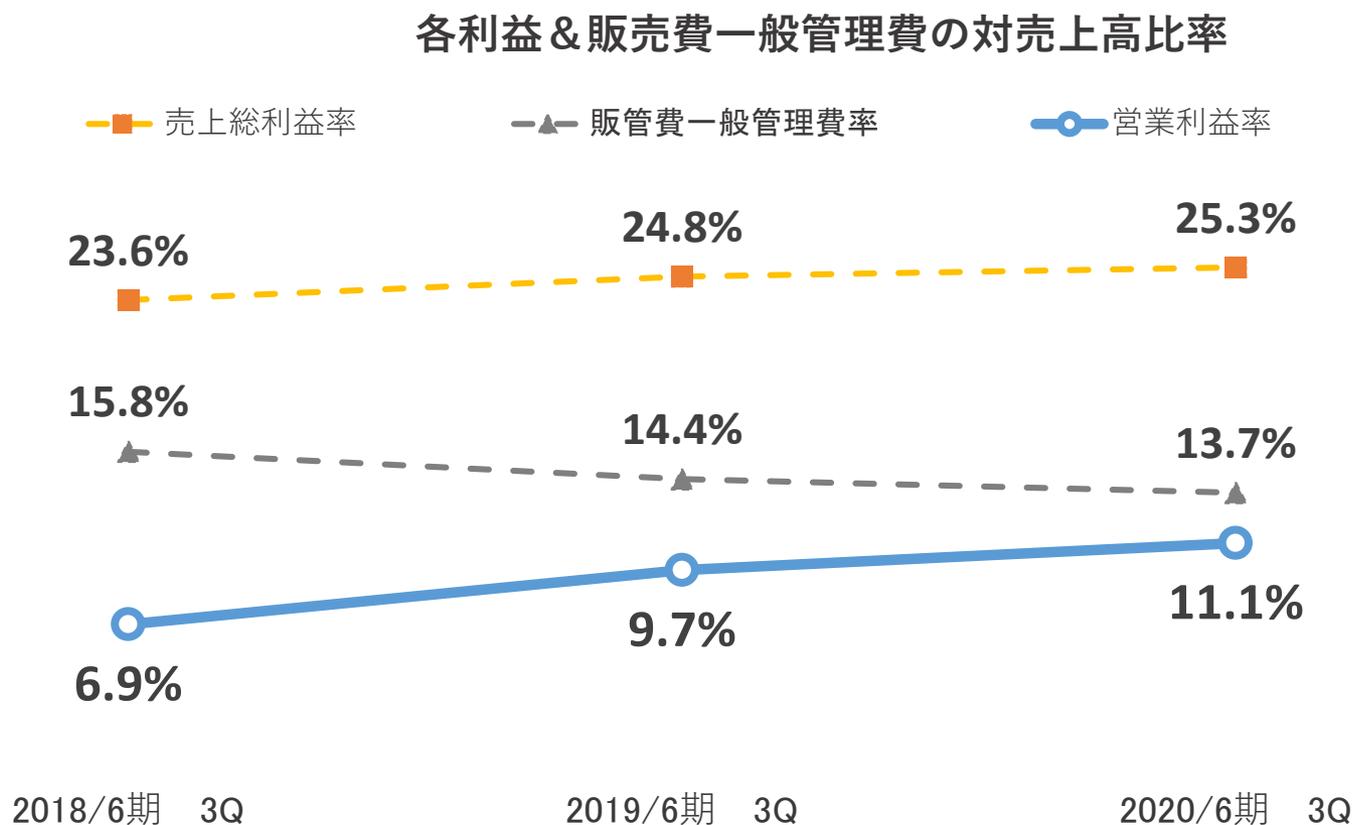
売上高、各段階利益ともに過去最高を更新

(前期は請負案件により利益が急伸したが、今期は総合力アップにより前期利益額を大幅に上回る)



営業利益率の推移

売上総利益率の上昇に加え販管費率も低下しており、営業利益率は順調に上昇



2020年6月期 第3四半期決算概要

- 売上高、利益ともに前期より大幅増
- 通期計画に対する進捗も順調に推移

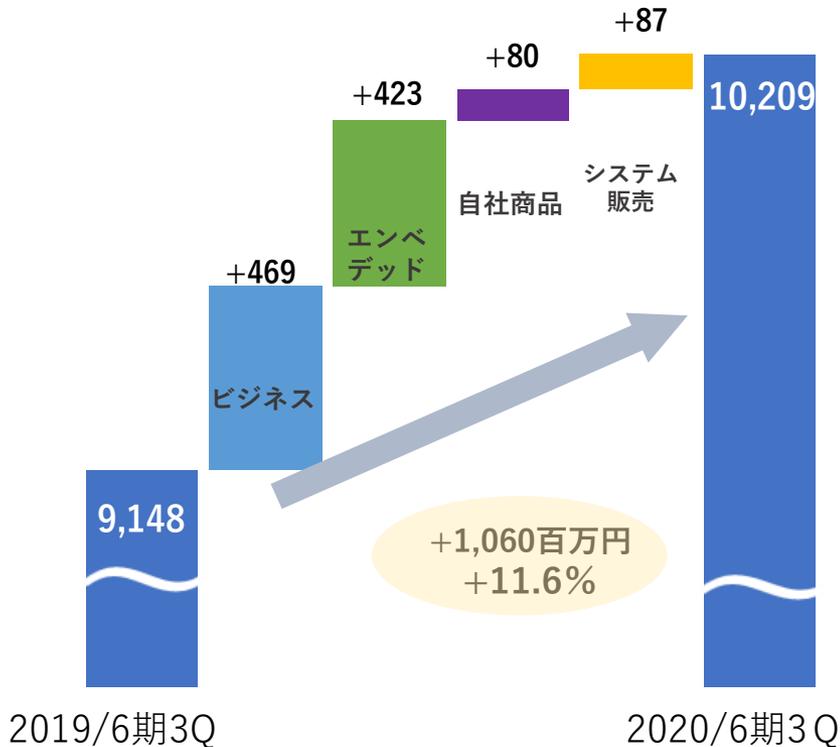
(単位：百万円)	2019/6期 3Q実績	構成 %	2020/6期 3Q実績	構成 %	前年同期 比%	2020/6期 通期計画	進捗率 %
売上高	9,148	100.0%	10,209	100.0%	+11.6%	13,030	78.4%
売上総利益	2,271	24.8%	2,583	25.3%	+13.7%	-	-
営業利益	955	10.4%	1,185	11.6%	+24.2%	1,180	100.5%
経常利益	961	10.5%	1,189	11.6%	+23.7%	1,177	101.1%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	661	7.2%	824	8.1%	+24.6%	790	104.4%

売上高、営業利益の増減要因（前期比）

- 売上高は全事業で伸びを示す
- 売上総利益の増加が販管費の増加を上回り、営業利益は前期比24.2%増

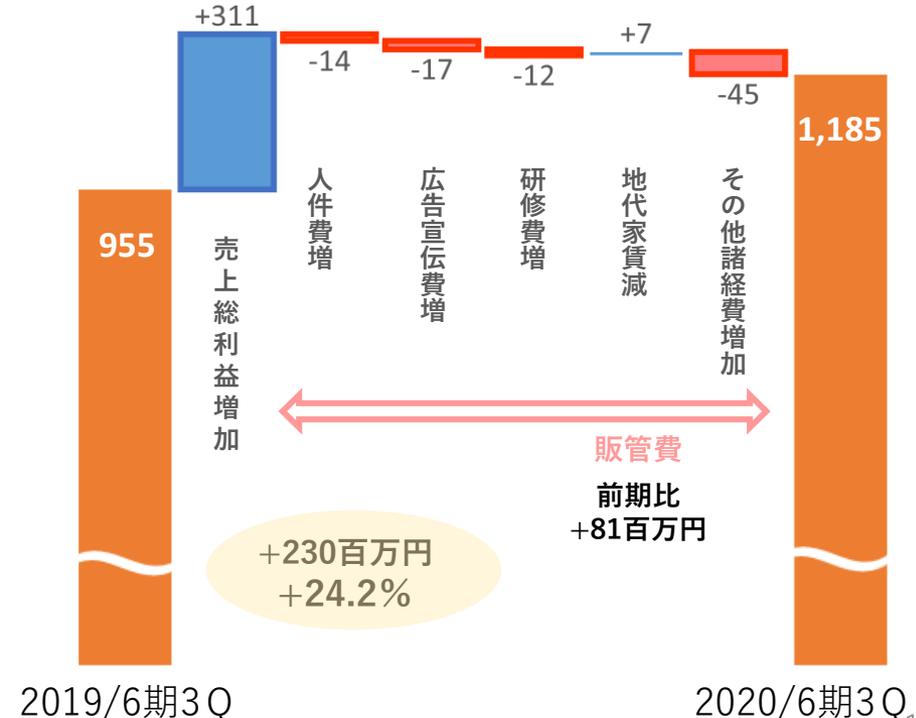
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



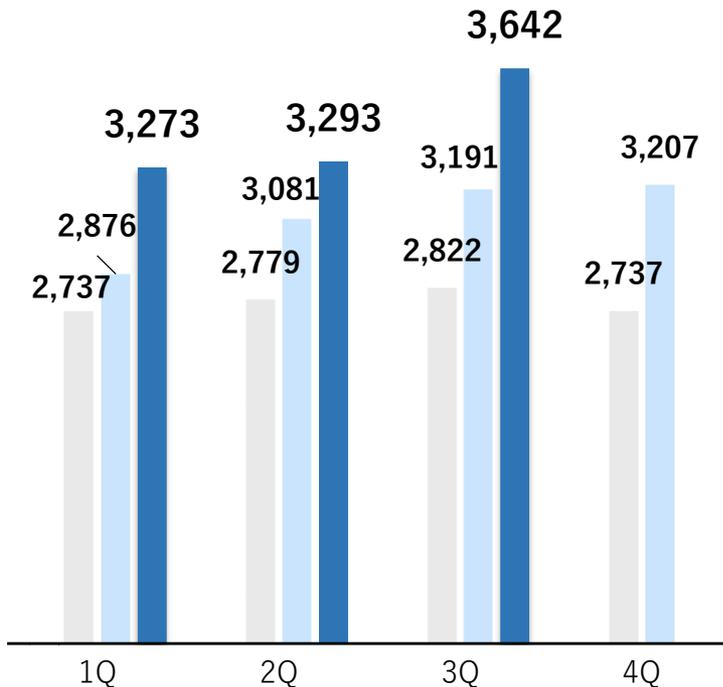
四半期別 売上高 & 営業利益推移

- 第3四半期単独では、四半期業績として売上、営業利益ともに過去最高を記録

売上高

(単位：百万円)

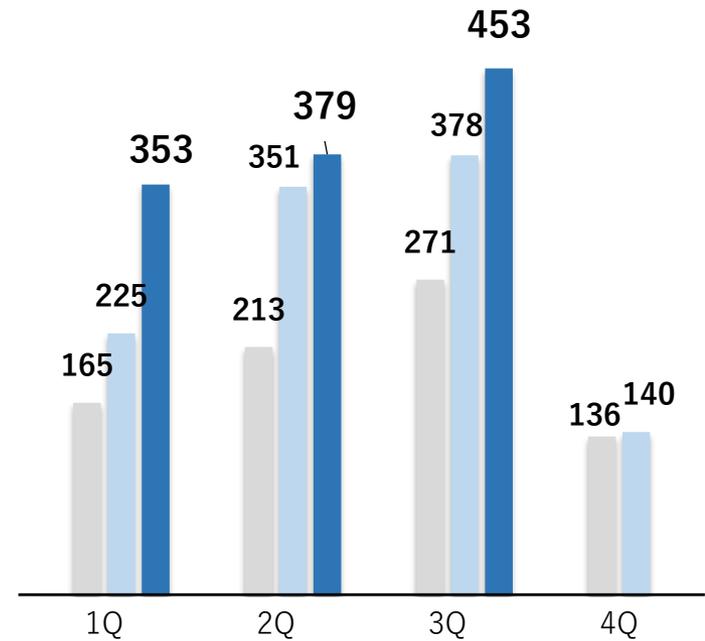
■ 2018/6期 ■ 2019/6期 ■ 2020/6期



営業利益

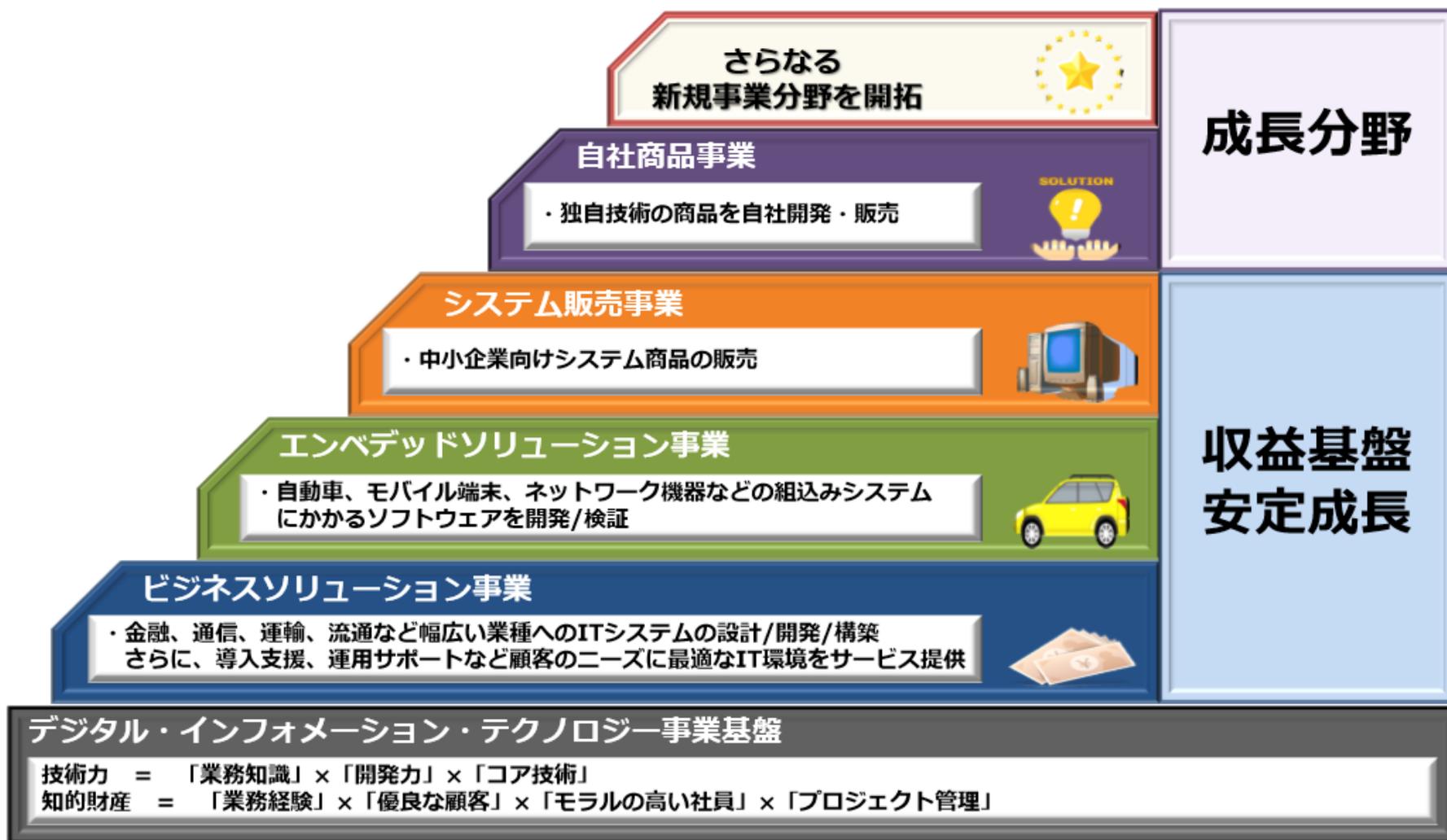
(単位：百万円)

■ 2018/6期 ■ 2019/6期 ■ 2020/6期



* 営業利益は新入社員の受入れ、期末手当等で第4四半期に減少する季節性あり

事業領域：各事業の位置づけ



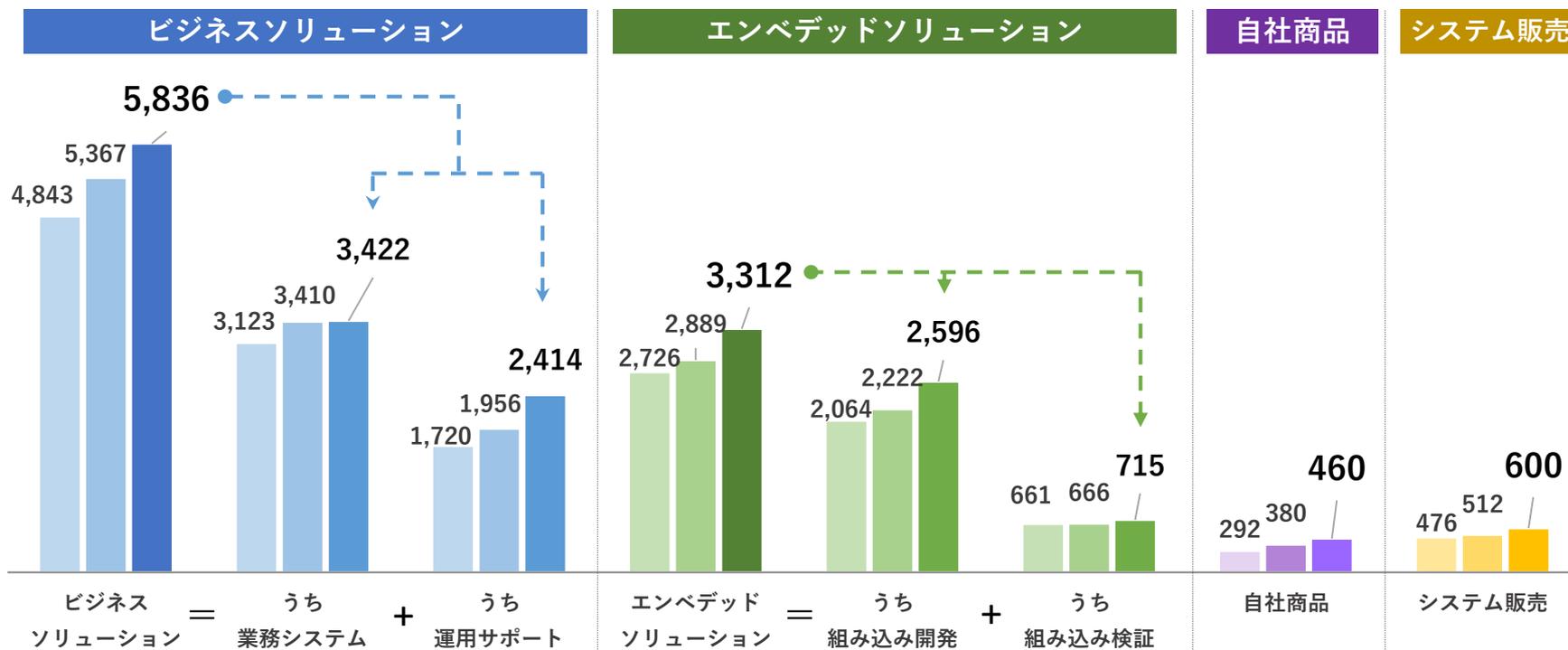
事業セグメント別売上高の推移

■全事業セグメントにおいて増収を継続

事業別売上高の四半期推移

(グラフは左から2018/6期3Q、2019/6期3Q、今期3Q)

(単位：百万円)



事業セグメントと売上構成

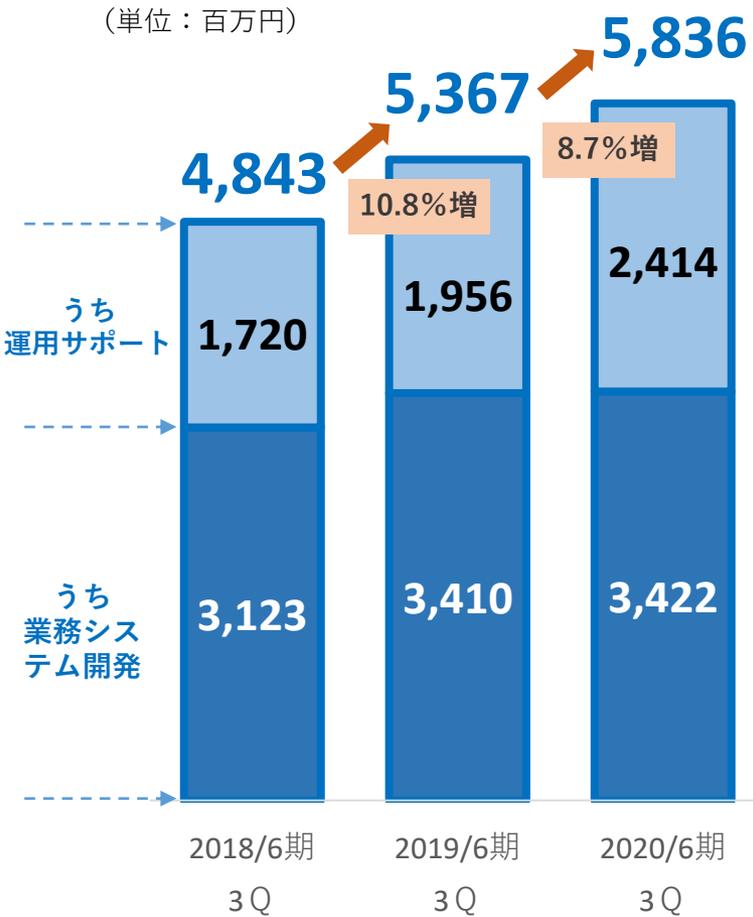
- 運用サポート、組込みシステム開発、自社商品事業が着実に伸展

事業セグメント	分類	2018/6期 3Q売上高 構成比	2019/6期 3Q売上高 構成比	2020/6期 3Q売上高 構成比
ソフトウェア開発事業		94.3%	94.4%	94.1%
ビジネスソリューション事業	事業基盤	58.1%	58.7%	57.2%
うち業務システム開発		64.5%	63.5%	58.6%
// 運用サポート		35.5%	36.5%	41.4%
エンベデッドソリューション事業	事業基盤	32.7%	31.6%	32.4%
うち組込みシステム開発		75.7%	76.9%	78.4%
// 組込みシステム検証		24.3%	23.1%	21.6%
自社商品事業	成長分野	3.5%	4.2%	4.5%
システム販売事業	事業基盤	5.7%	5.6%	5.9%

セグメント別売上高：ビジネスソリューション事業

進捗率76.8%

(単位：百万円)



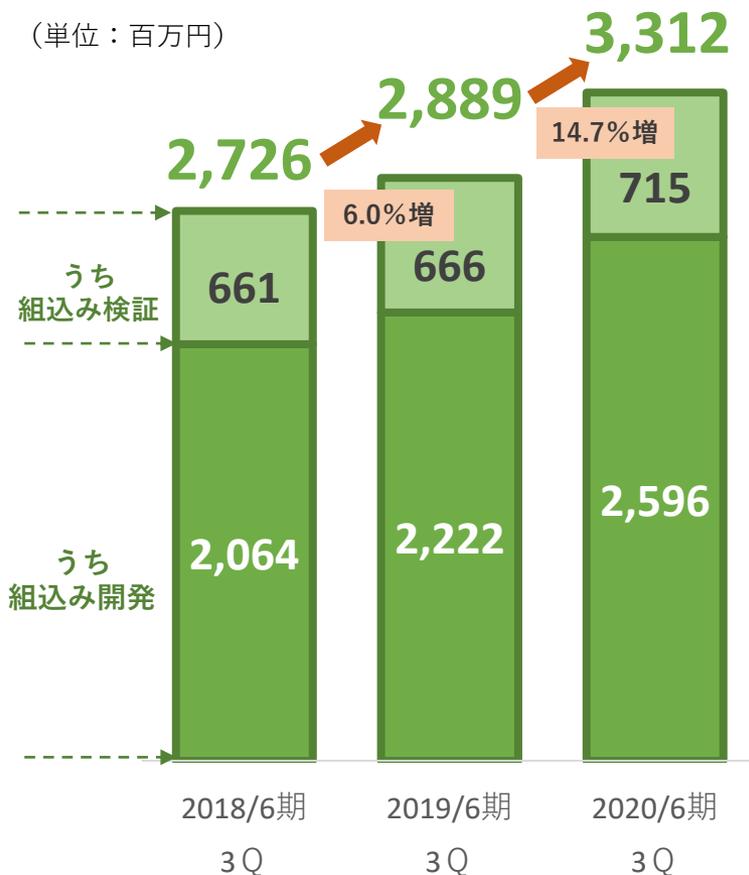
売上高：5,836百万円
前期比：+8.7%

- 業務システム開発は、金融系・流通系システム開発が伸び悩んだが、公共系・製造業向けシステム開発の伸びがカバー。また、全体として利益面が改善。
- 運用サポート事業は、積極的な顧客開拓が功を奏し大幅に伸長

セグメント別売上高：エンベデッドソリューション事業

進捗率79.6%

(単位：百万円)



売上高：3,312百万円
前期比：+14.7%

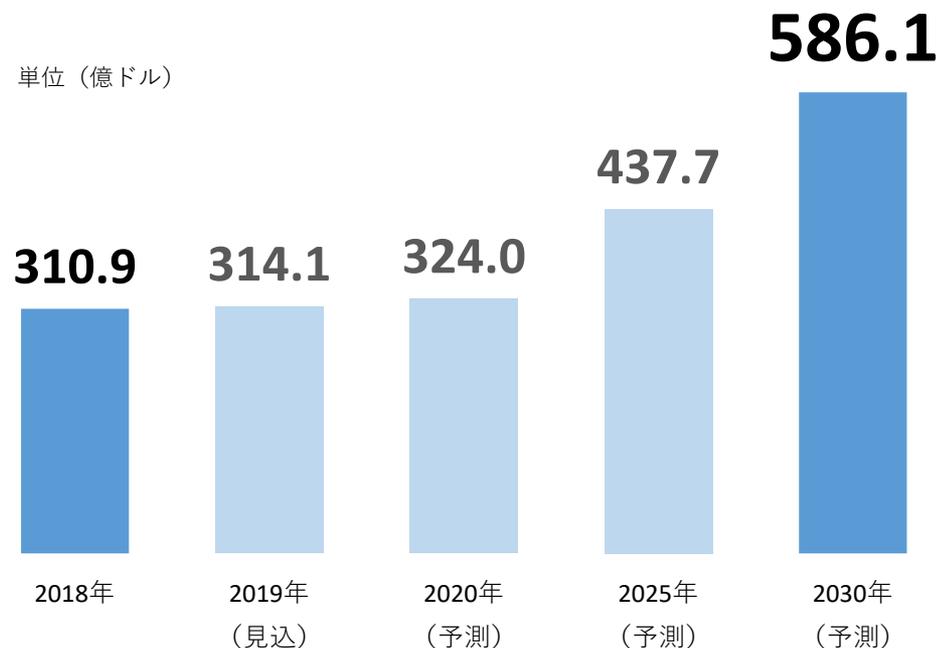
- 組み込み開発・組み込み検証ともにコネクテッドカーを中心に車載関連の領域拡大が進み、売上・利益ともに大幅に伸長
- IoT領域として、家電等の機器に新たなサービスを付加するモバイルアプリ開発が拡大

ご参考：車載関連市場は好調に推移

- ADAS、CASE*などの発展により車載用半導体市場は好調
同世界市場規模は2030年に18年比88.5%増の約586億ドルまで成長
するとの予測（矢野経済研究所より）

車載用半導体の世界市場

単位（億ドル）



車載用半導体の
世界市場規模予測

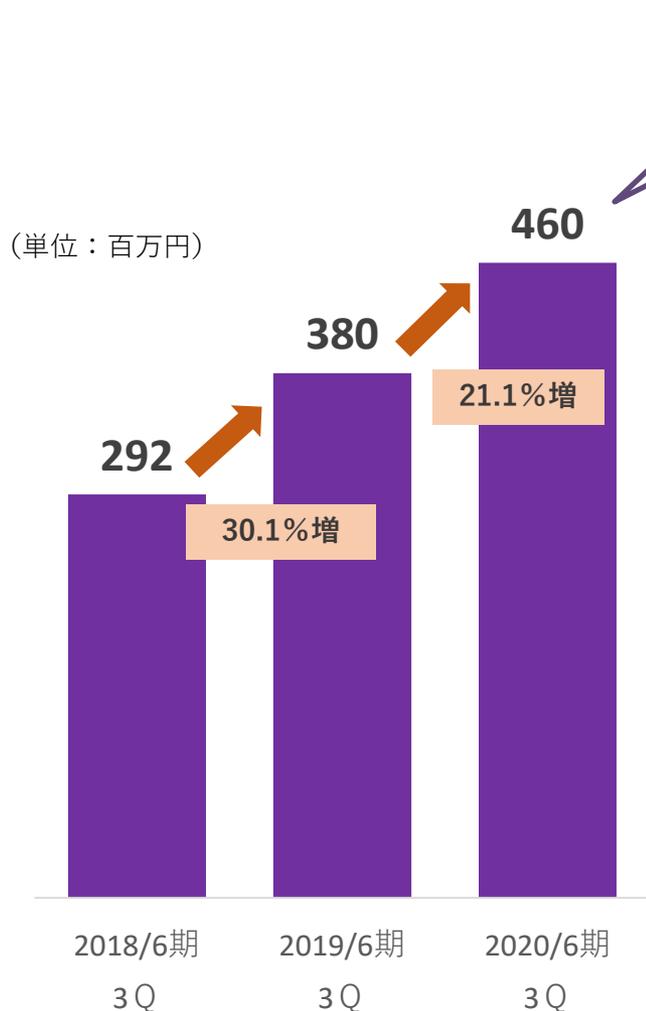
+88.5%増

（2018年→2030年比）

*ADAS=Advanced Driver-Assistance Systems
（先進運転支援システム）の略称

*CASE = Connected（つながる）、Autonomous（自動運転）、
Shared（共有）、Electric（電動化）、以上の自動車先端
技術分野の頭文字を組み合わせた総称

注）グラフは2020年4月2日発表の矢野経済研究所資料より当社作成



進捗率76.0%

売上高：460百万円
前期比：+21.1%

- 【WebARGUS（ウェブアルゴス）：サイバーセキュリティ商品】

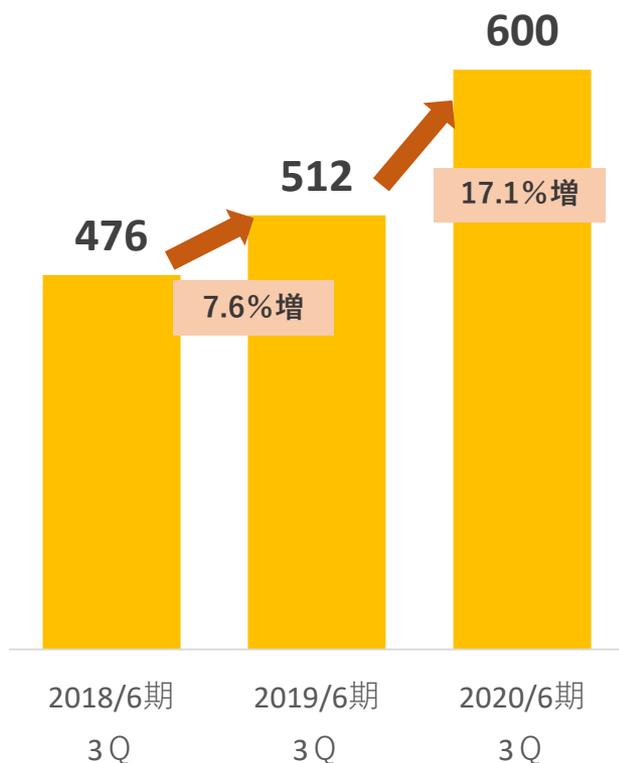
大規模ユーザーへの導入に注力するとともに、トータルセキュリティサービスのラインナップ充実に向け、外部セキュリティ専門会社と協業を進めた結果、順調に拡大

- 【xoBlos（ゾブロス）：業務効率化商品】

子会社のDITマーケティングサービスと一体となった販売体制を構築したことと、RPA、ERP等の他製品と連携するxoBlosプラスワン構想の推進により、順調に拡大

セグメント別売上高：システム販売事業

(単位：百万円)



進捗率90.0%

売上高：600百万円
前期比：+17.1%

- 消費税増税に伴う「楽一」の入れ替え・改修需要に加え、Windows 7 サポート終了対応等により、売上・利益ともに順調に伸長

※ システム販売事業は、カシオ計算機株式会社製中小企業向け業務支援及び経営支援の基幹システムである楽一の販売を主としております

財務状況

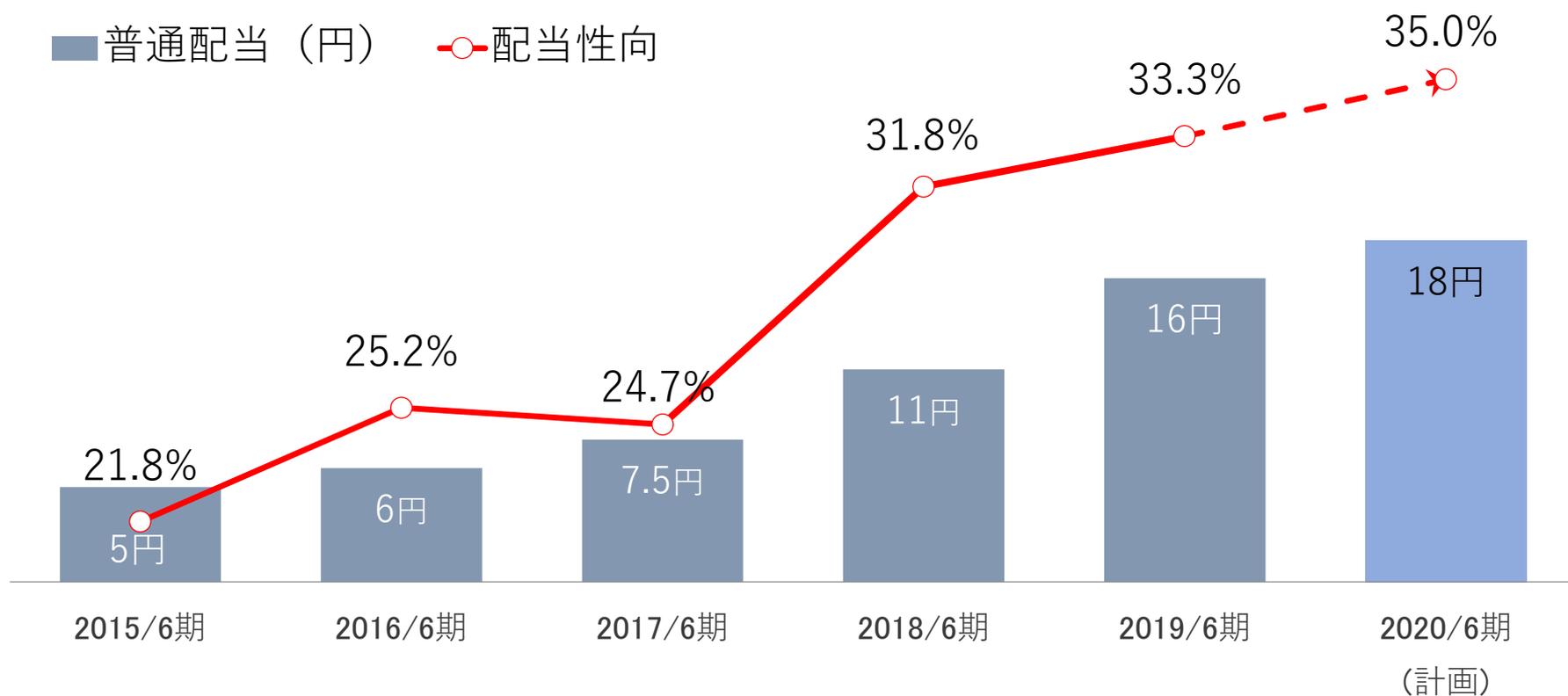
■ 無借金経営、自己資本比率67.5%

(単位：百万円)

(単位：百万円)	2019/6月末	2020年6月期第3四半期	差額
総資産	4,655	5,187	+532
流動資産	3,933	4,399	+466
固定資産	721	787	+66
負債	1,707	1,686	△21
純資産	2,947	3,500	+553
自己資本比率	63.3%	67.5%	+4.2pt

株主還元（配当+自社株式購入）

■ 配当性向30%以上を目標



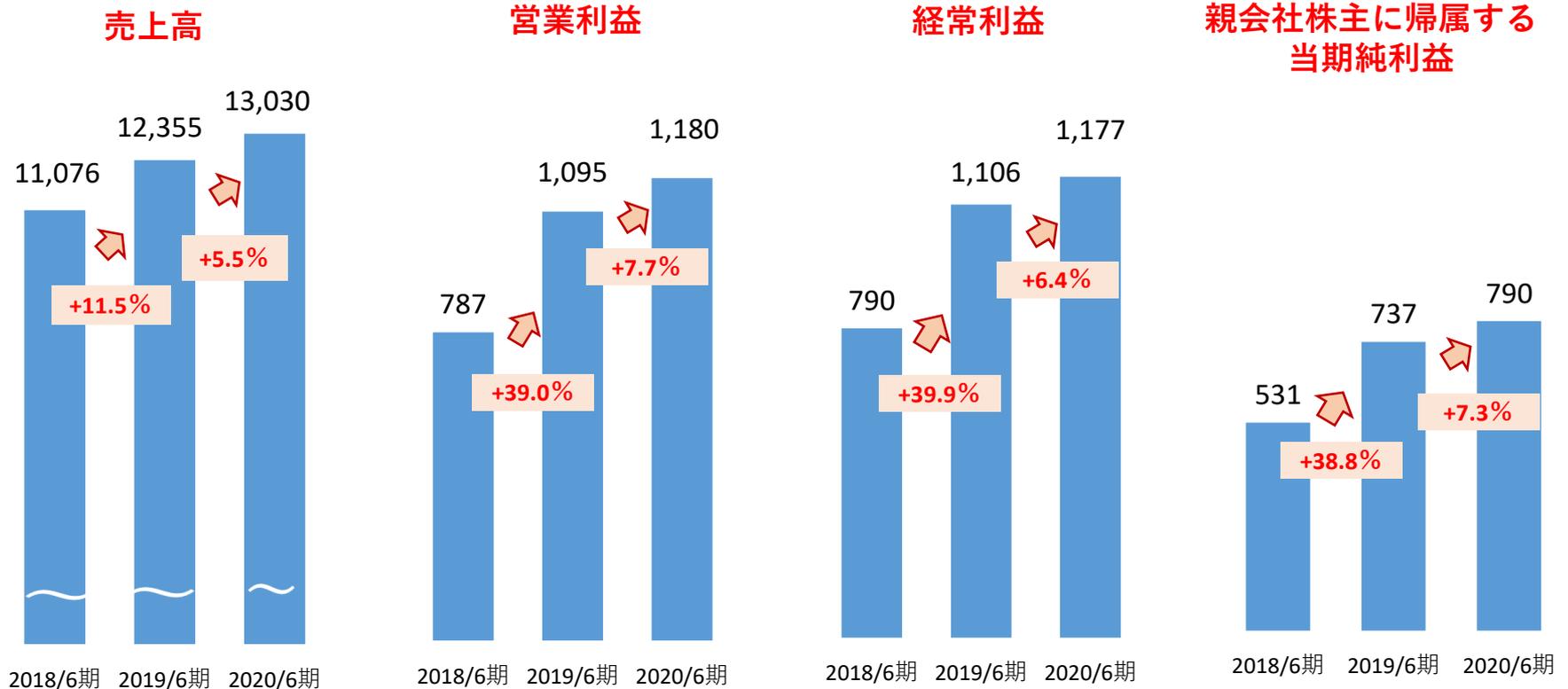
- ・ 2016年、2018年と株式分割1：2を実施、実施後の一株当たり年間配当金で表示
- ・ 2018/6期、自社株式購入136百万円実施（総配分性向57.5%）

2020年6月期 連結決算業績予想



2020年6月期 通期業績予想

- 企業のIT投資需要は底堅く、10期連続の増収・増益を計画
(新型コロナウイルス感染症の影響が判明次第、情報開示を予定)



セグメント別 業績予想

- ソフトウェア開発事業は、前期比+5.9%増を計画、自社商品事業は21%の大幅増を目指す

(単位：百万円)

事業セグメント	2019/6期 売上高	2020/6期 売上高予想	増減額	増減%	構成比
ソフトウェア開発事業	11,677	12,365	688	5.9%	94.9%
ビジネスソリューション事業	7,311	7,600	289	4.0%	58.3%
エンベデッドソリューション事業	3,866	4,160	294	7.6%	31.9%
自社商品事業	500	605	105	21.0%	4.6%
システム販売事業	678	665	-13	-1.9%	5.1%
合 計	12,355	13,030	675	5.5%	

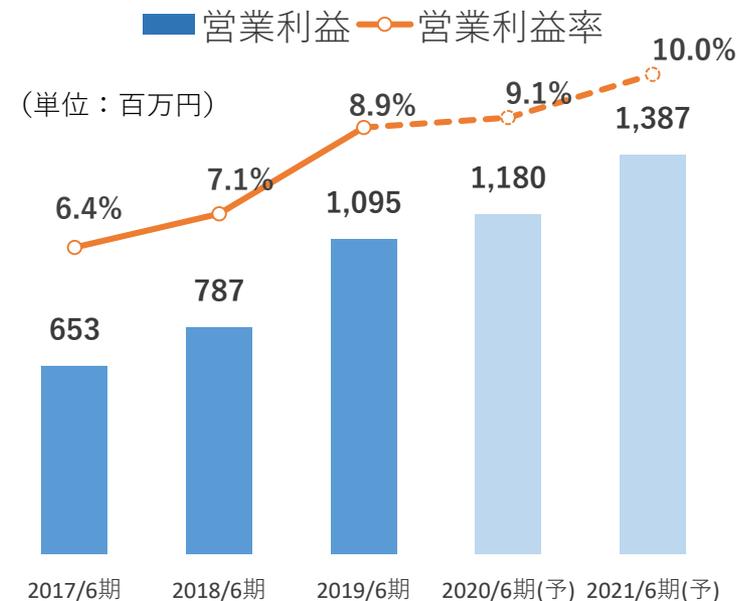
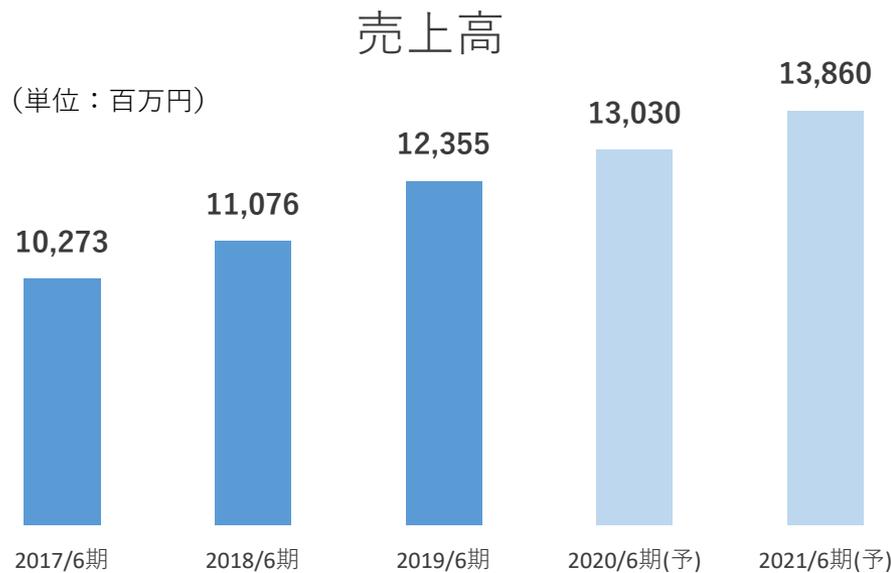
中期経営計画



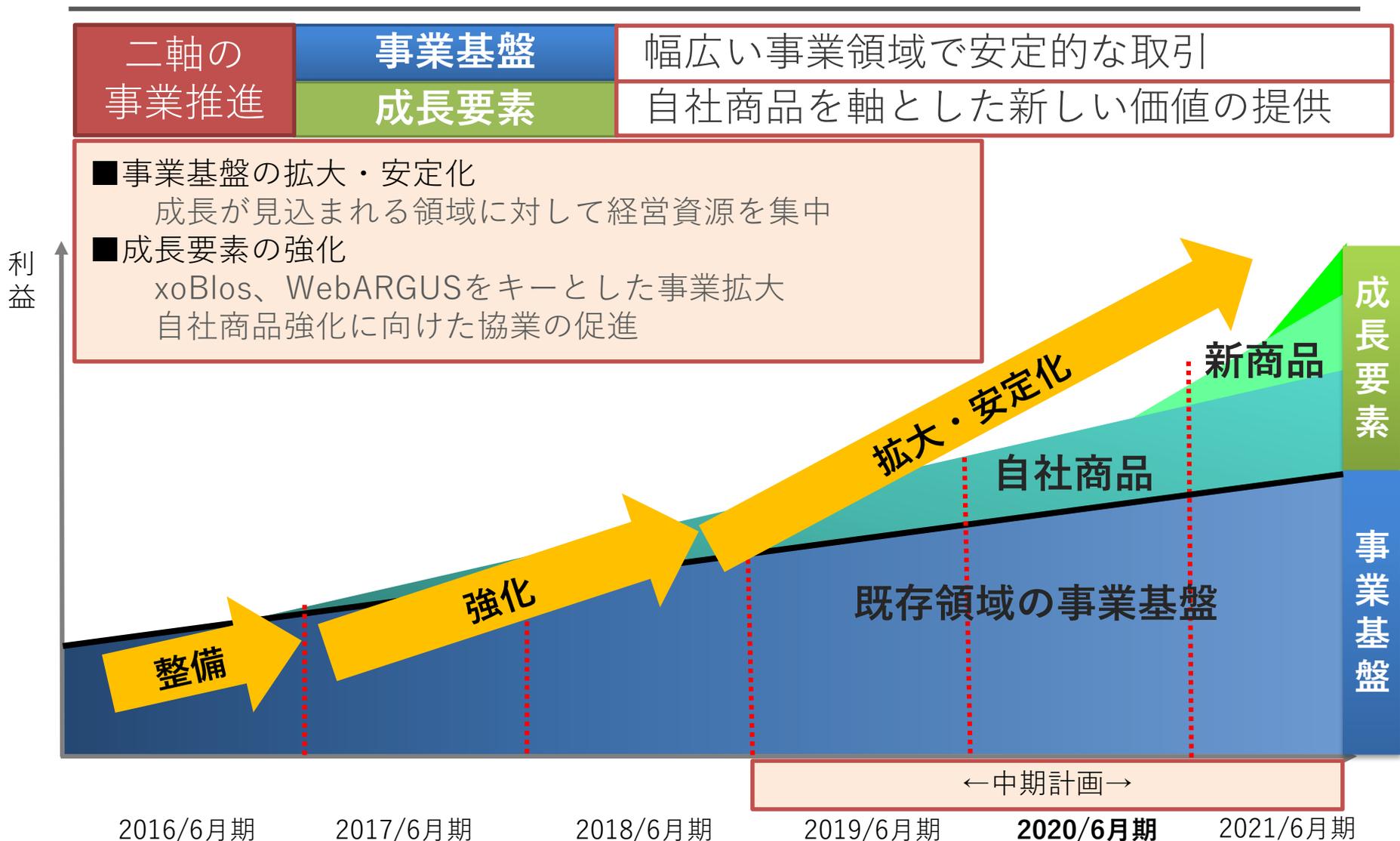
中期経営目標：「トリプル10」の達成

■ 2017/6期スタートの中期経営目標：5年以内のトリプル10を達成!

中期経営目標 5年以内に トリプル10を目指す	売上高	100億円 (2017/6期) 達成!
	営業利益	10億円 (2019/6期) 達成!
	営業利益率	10% (2021/6期) 目標



中期的成長モデル



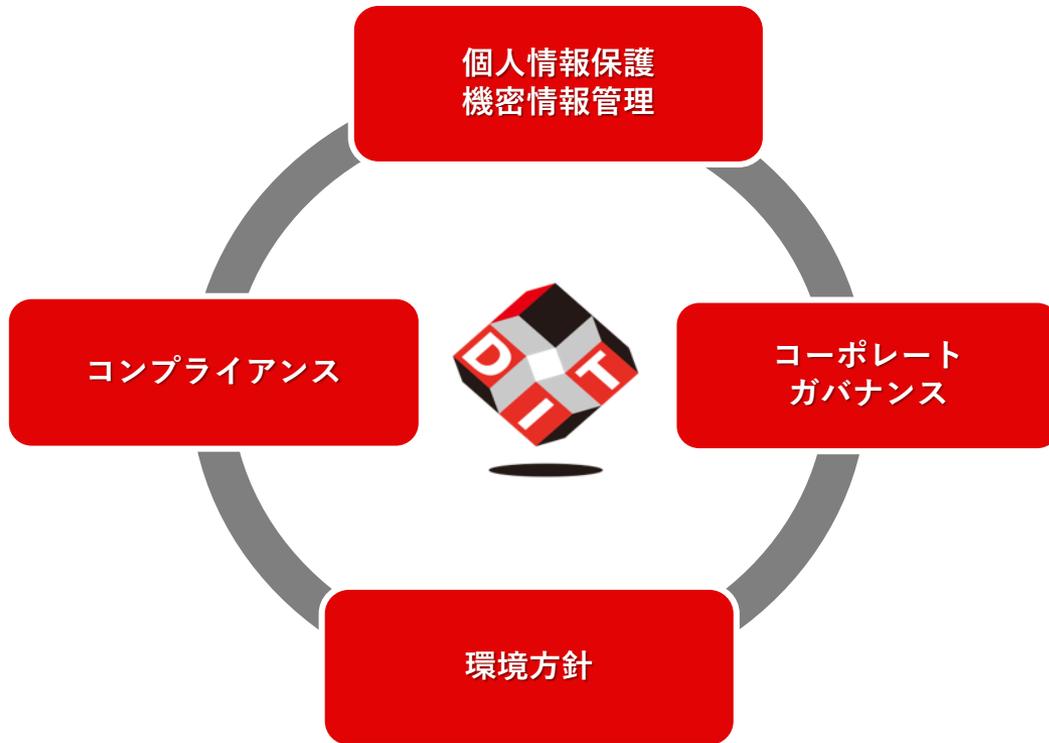
企業価値拡大に向けて

- 三位一体で企業価値の拡大を目指します！



CSRへの取り組み

- ステークホルダーに信頼され、選ばれるDITブランドを構築してまいります。



DITは今年も「愛媛FC」を応援します！





参考資料

会社概要

商号： デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社
Digital Information Technologies Corporation

設立： 2002年1月4日

事業内容： 業務系システム開発、組込系システムの開発及び検証、
システム運用サービス、自社開発ソフトウェア販売及び
システム販売事業

本社所在地： 東京都中央区八丁堀4-5-4 FORECAST桜橋5階

資本金： 453,156千円（2019年6月末）

決算期： 6月30日

従業員数 1,009名(単体940名)（2019年6月末）

役員： 代表取締役会長 市川 憲和
代表取締役社長 市川 聡
他社内取締役 5名、社外取締役 3名
常勤監査役 1名、社外監査役 2名

グループ会社： DITマーケティングサービス株式会社、DIT America,LLC.



代表取締役社長 市川 聡

2004年3月 当社入社
2007年7月 執行役員経営企画本部経営企画部長
2010年7月 執行役員事業本部部長
2012年9月 取締役執行役員経営企画部長兼商品
企画開発部長
2015年7月 常務取締役事業本部部長
2016年7月 代表取締役専務執行役員
2018年7月 代表取締役社長

企業理念

企業理念	全体	顧客起点	経営理念	社員の生活を守り、 且つ社会に貢献する
	会社	育成、コミュニケーション		
	個人	付加価値向上、目的目標をもつ、熱い情熱をもつ		

経営方針	付加価値の追求と変化対応への取り組みから、 経営の安定成長を目指す
------	--------------------------------------

事業戦略

5つの基本的な事業戦略

1.【既存事業の改革による事業基盤の強化】

2.【自社商品を軸とした新しい価値創造】

3.【協業による事業拡大】

4.【開発からサービスへ】

5.【採って育てる】

5. 人材調達・人材育成

【サービス視点での事業拡大】

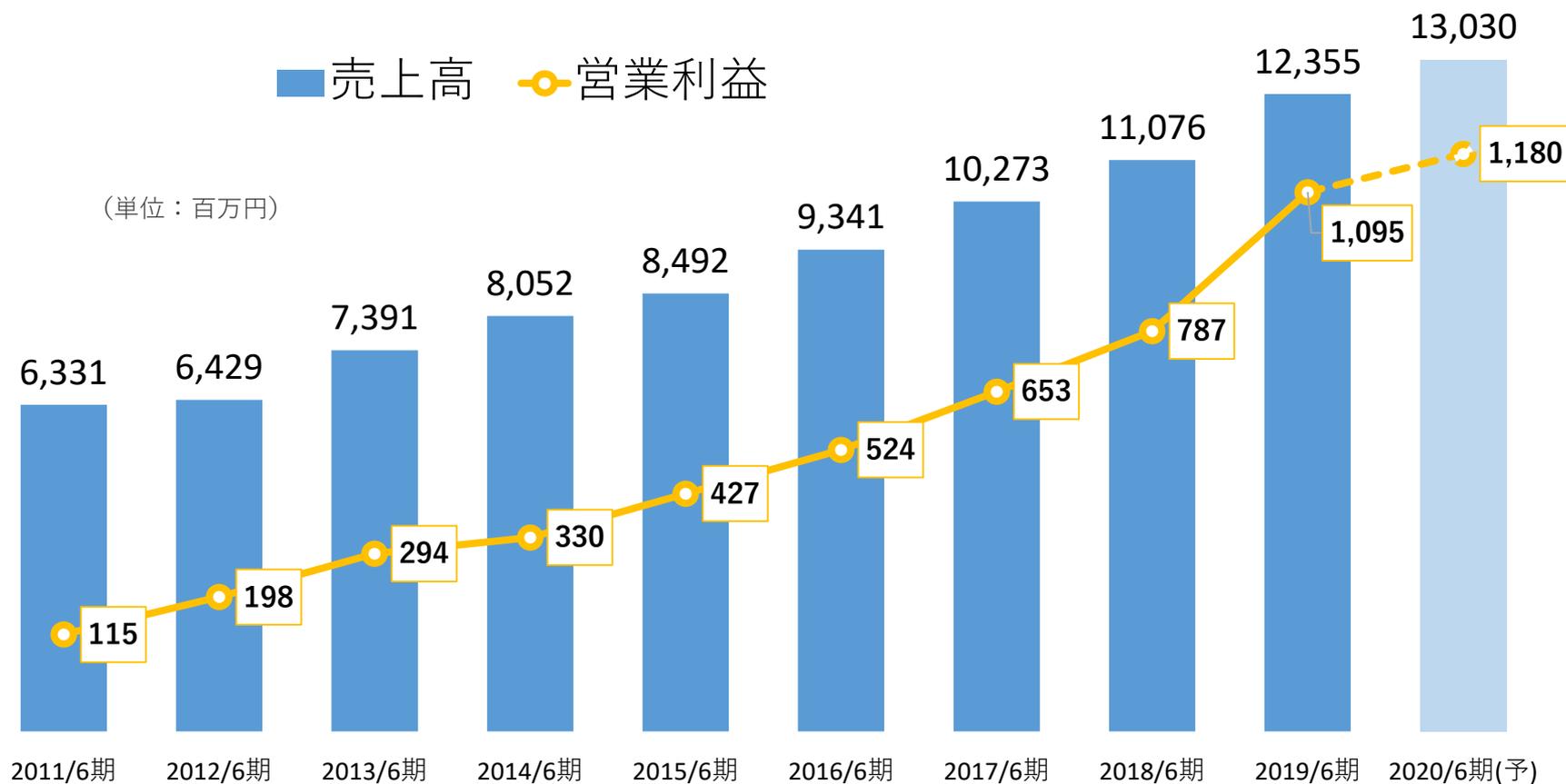
組織戦略

分散（部分最適）と集中（全体最適）の組織戦略

【分散（部分最適）】 変化対応・専門特化・経営者育成	BSカンパニー	eBカンパニー	SBカンパニー	ESカンパニー	NNカンパニー	QEカンパニー	EMカンパニー	XOBIOs事業部	ITセキュリティ事業部	DITアメリカ・LLC DITマーケティングサービス(株)	
	CS本部		TS本部		DX本部						
	管理本部										
	経営企画本部										
	【集中（全体最適）】 統制・統括・コラボレーション										

業績推移

■9期連続、増収・増益



当社の強みと基本戦略

当社の強み

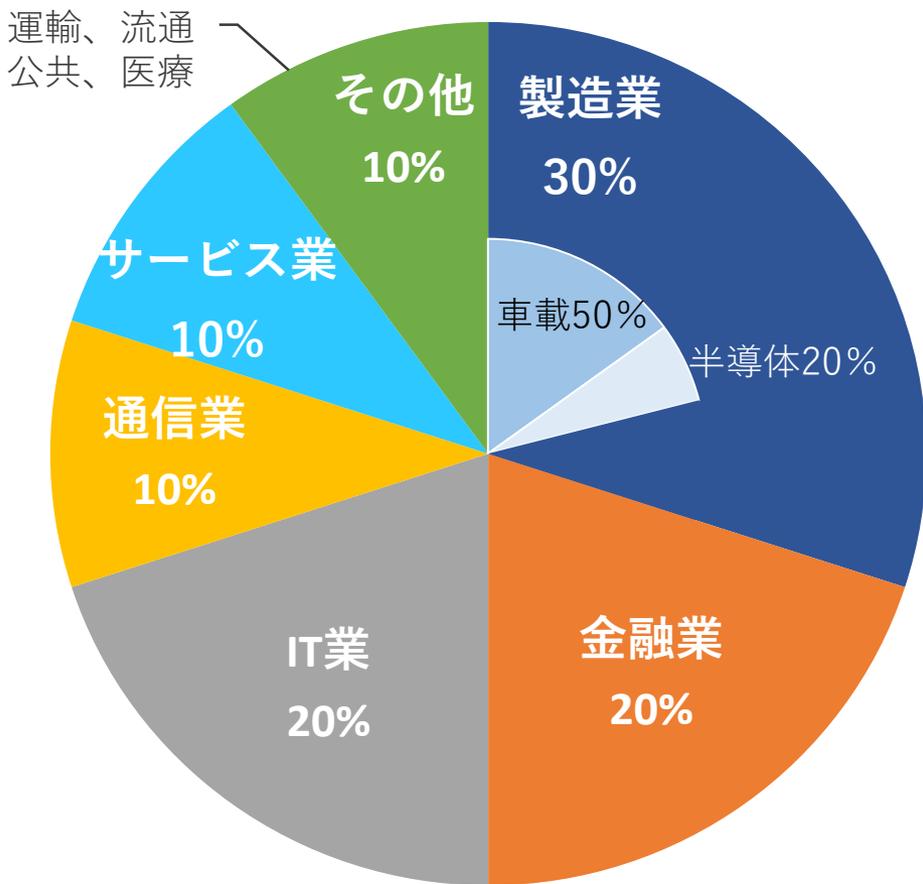
- 業務システムの開発・運用、組込みシステムの開発・検証と事業領域が広い。
- 優良顧客から評価される業務知識、技術力、価格競争力がある。
- 顧客との信頼関係に基づく長期安定ビジネスが主で、事業基盤が安定している。
- 独自性があり、市場拡大が期待できる自社商品を有する。

基本戦略

- 成長戦略：2軸の事業推進（既存事業の改革による事業基盤の拡大・安定化と成長要素である自社商品事業の強化）を通じて成長し続けること。
- 企業総合力強化：技術力、付加価値等の総合力を押し上げ、一人当たりの利益をアップさせること。

顧客基盤

業種別の売上高構成比



■ D I Tグループの取引先は約2,600社

- ・ソフトウェア開発事業は上場企業及びその関連会社、システム販売事業は中小企業が主

■ ソフトウェア開発事業の業種別売上高構成（左図）

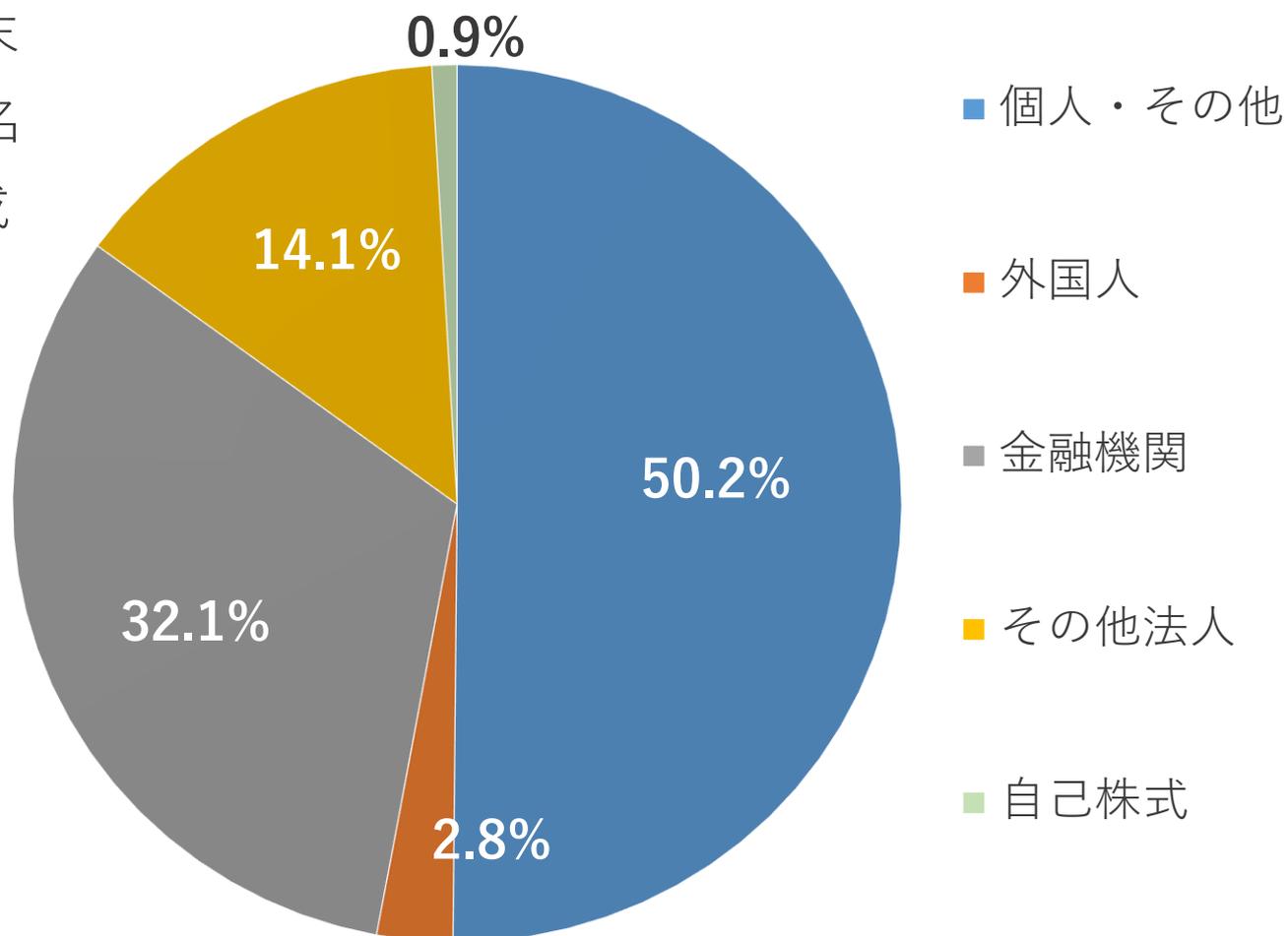
- ・情報システム子会社を含めたエンドユーザー売上比率は80%

国内外の開発拠点と社員数



株主構成

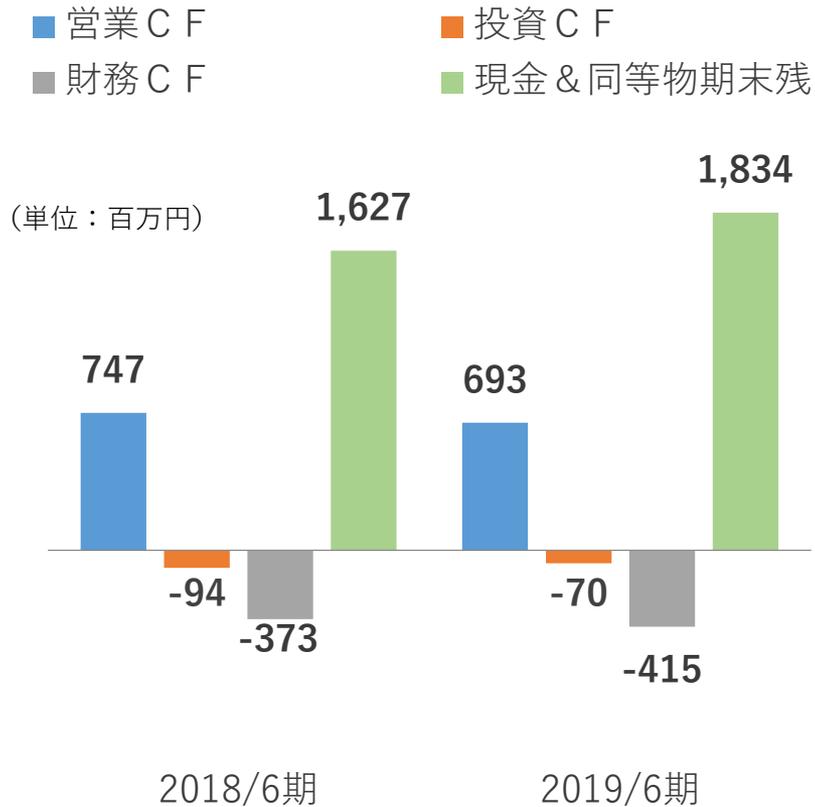
2019年12月末
株主数3,697名
株主構成



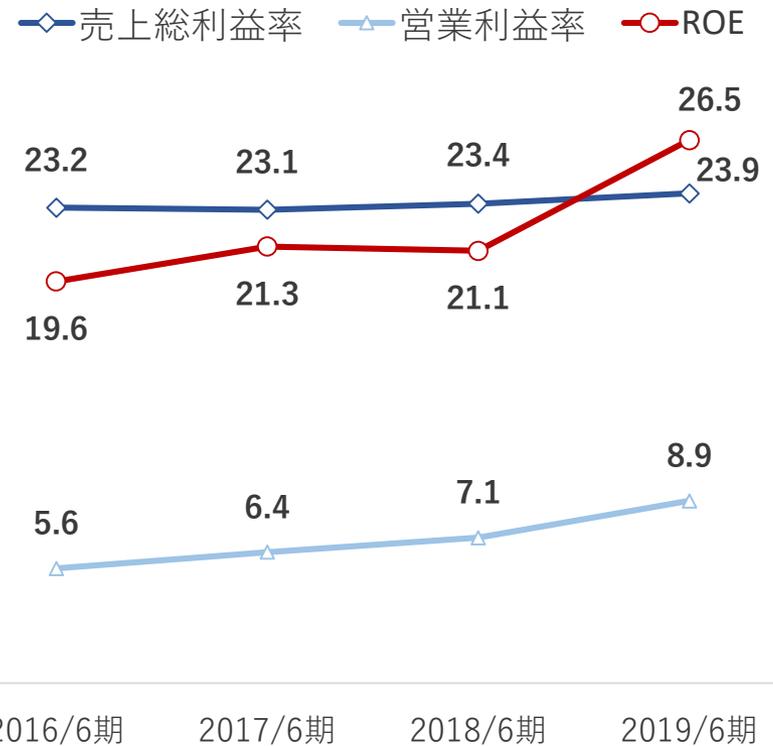
キャッシュフロー、財務KPI

■営業利益率の向上により、ROE26.5%に改善

連結キャッシュフロー



売上総利益率/営業利益率/ROE (%)





お問合せ先：

経営企画本部 I R部 榎本

TEL: 03-6311-6532 FAX: 03-6311-6521

E-mail: ir_info@ditgroup.jp

- この資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本資料において提供される情報は、「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらのリスクは不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本資料に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。